



西区の良さについてミュージカルで伝えていきたい。

小学校生活最後の宮谷タイム（総合）は地域とのつながりを大切にしたい！西区について調べていると「にこまちプラン」というものに会いました。

「にこまちプラン」とは

少子高齢化などの課題の変化に対応するために、個人に対して行う支援では個々の問題を的確に対処するのは難しくなっています。そんな中、人が人を思いやり、少しずつ助け合い、誰もが安心して充実した生活を送れるような地域づくりがより必要になってきます。にこまちプランは、身近なつながりを通して、みんなで暮らしやすいまちをつかっていくために西区に関係する全ての人の力を借りて行う計画です。



西区役所 地域振興課・福祉保健課のみなさんに相談したり、教えていただいたりしました。

たくさんある西区の魅力。その中で私たちは「人の温かさ・思いやり」を伝えて、西区の人々の「つながり」を強くしたいと考えました。私たちの目標は「ミュージカルで西区の良さを伝え、クラスみんなが1つの目標に向かって全力になれる」です。

劇団名&タイトル決定！

劇団名は自分の名前みたいなものだと考えて、個性を表す、目標を表す劇団名をみんなで話して決めました。英語のshinyから着想を得て日本語の「輝く」にしてそこからきらきら星をアレンジして「輝星」という劇団名になりました。このクラスの明るさという長所を輝く星という言葉で表現しています。学年目標の「信望星」にも、関わってくださっている専門家の方のお名前にも星という言葉が入っているの、劇団名にも星という言葉が入っているところもお気に入りのポイントです。星というの、個性や、たくさんの笑顔などを表すことができ、それが輝くという意味にもつながると考えています。これから、この私たちの劇団名を大切に、意味をしっかりと心の中で留めて、ミュージカルをやりたいなと思いました。



「にこまち」=西区のことを伝えたい思いが込められている。「光」=このクラスの元気なところか、みんなが輝けるという意味が入っている。「エルコス」が本家、「にこまちの光」が6-3、似ているようで言葉が全然違っていて、にこまちの方が私達らしさがよく出ていて、気に入っています。自分たちがこのまちを好きなことも入っているし、西区はいいところだよということも表現できている、心の優しさ、温かさが伝わる心温まるミュージカルということもタイトルで伝えられると考えています。自分たちらしさを伝えたいことを大切にできていて、そこにまた物語の伝えたいことがのっかっています。「光」という言葉には、主人公の妖精達の名前を入れても、それを表した言葉であり、主人公達はにこまち学園の子と違って光だった、ということも象徴しています。～サブタイトル「語りかけよう、このまちの仲間達へ」～サブタイトルは、物語そのものを表して、サブタイトルを見て「観てみよう」と思えるものと思っています。この劇場で観た「エルコス」も、観た後もう一回サブタイトルやタイトルを読むと、なんだかとても意味がこもっているように感じて、ああいう感覚をお客さんに味わってほしいと思ったので、このサブタイトル、タイトルだったらそうなるんじゃないかなととても嬉しい気持ちになりました。ほっこりした気分になれるところもお気に入りです。

劇団名、タイトル両方輝くことを大切にしているので、ステージの上の私たちが輝けるようにしたいなと思っています！

「にこまちの光」とは？私たちの願いは…

～あらすじ～

物語の舞台はにこまち学園。3人には、夢や希望、笑うことさえ忘れてしまった子ども達がいました。ある日、あたたかな心を持った妖精が浅間神社から封印をとり、現れます。彼らは、優しい心と魔法で、子ども達を救っていきます。その中で、ただ1人妖精達を信じられないジョン、また、妖精の姿を嫌う教師達が、事件を起こすとして…。

ミュージカルは、必ず、何か自分の心に残してくれず。ミュージカルが残してくれるものは、きっと人それぞれ違うと思いますが、必ず、「見てよかった」と思えるはず。

自分の中に残るものは、今の自分によって違うと思います。何かに悩んでいる時、悩んでいることを見つめることができるかもしれません。ヒントをもらうこともできるかもしれません。何も悩んでいない時、自分の未来を知ることができるかもしれません。未来のヒントを知ることができるかもしれません。

また、前に見たことあるミュージカルを、数年経ってから、また見てみてください。心の中に残るものが、違うはず。それは、あなたが成長したからです。

心の中のモヤッとした気持ちの答えやヒントは、必ず、あなたの中にあります。でも、それを見つけること、難しいと思います。だから、その答えやヒントを見つけるために、ミュージカルを、みてみませんか。



観たくなった方はこちらへ！！



おすすめナンバー紹介

ミュージカルの魅力である歌とダンス。西区のみなさんに届けたいナンバーを紹介します。

①カナタスたち・子供たち

①「本当の自分を見つけよう」  
場面：「どうして勉強が嫌いなのか」と歌った所から「算数は苦手だけど歌は好き」のフレーズが好きです。思い出したとたん、ついつい歌いたくなってしまおうような歌です。  
②「フィナーレ・語りかけよう」  
場面：第二幕のフィナーレ  
第一幕の「語りかけよう」とは少し違います。歌のハモリがすばらしいです。歌ってもいいリズムに合わせて拍手するだけでも楽しくなるような歌です。

②カナタス・トマス・ジョン

①「カナタスたちとジョンのデュエット」  
場面：ジョンがカナタスたちに金庫を開けさせる所  
違う高さの音が重なるところが、すれ違う二人を表現しています。ジョンと仲良くなりたいたいカナタスたち、信じられないジョン、二人はどのようなかドキドキします。  
②「個性は大嫌い」  
場面：カナタスたちがラーメンを食べた後  
ジョンは小さい頃から、自由なんてありませんでした。決まりやルールに縛られてきたトラウマや、一人しかいない寂しさが、歌の歌詞から伝わってきます。

③悪役

①「手くすねひいて」  
場面：「機械は大嫌い」の後、地下室の場面  
初めは切なく歌います。ですが、その次に曲の印象がガラッと変わります。最後はリズムに、悪役たちが歌を歌詞にして歌っています。  
②「ユートピア学園のテーマ」  
場面：にしまろがタイムスリップしてすぐ  
なんの感情もない子供たち、支配することに幸せを感じる悪役。そんな状態を変えようとする長老。個性を失い、動きをそらえて服従する子供たちのダンスも観てほしいです。

わたしたち劇団輝星のミュージカルの良いところは「歌」だと思って、声も綺麗だし、「歌」をみんなで歌うというのはひとりひとりの歌声や音がとても個性が溢れ出ている感じがします。お客さんと一緒に歌いたいナンバーもあります。

